

札幌創成高等学校 太鼓部

CASE.06
Town planning in North

街中に活気をふりまく“つぎ”的世代



私が思う、 北区の魅力・好きな場所

自然がいっぱいなところがいいと思うし、のどかで落ち着いた雰囲気が感じられるのが魅力。人口が多いので、活気にあふれている感じもします。(池谷美友副部長)

札幌創成高等学校 太鼓部

同好会を経て1992年に創部。2006年から全国大会に連続出場する強豪校で、テレビなどメディアで何度も紹介されている。

再開されはじめた今、入学校外での演奏も少しずついるそつ。

11月の全国大会で2023年年の全国大会出場を決めて、ささに気合が入っています。



リズムや音だけでなく、振り上げる腕の高さや目線も重要。練習ではお互いを厳しくチェックしながら、さらなる高みを目指します

部を代表してインタビューに答えてくれたのは、2年生の河合ひなた部長と池谷美友副部長。2人とも、入学するまで太鼓は生演奏もほとんど聞いたことがない初心者でした。「部の見学会に行つたときに、先輩たちが見せてくれた演奏の迫力にすごく感動したんです」。内臓まで震えるような太鼓の音にすっかり魅了され、すぐに入部を決心しました。バチの握り方や手首の使い方、腕の上げ方、たたく角度などで繊細に音を変化させる太鼓。それでも基礎練習を地道に重ね、プロからの指導を受けることで、少しずつ自分の出音が変わってきたと感じています。

「入部して2年経ちますが、理想の音を出せているとはまだ思えません」と笑う2人。それでも基礎練習を地道に重ね、入部して2年経ちますが、理想の音を出せているとはまだ思えません」と笑う2人。それでも基礎練習を地道に重ね、プロからの指導を受けることで、少しずつ自分の出音が変わってきたと感じています。

放課後の練習場からは、波動が身体を突き抜けるような力強い太鼓の音に加えて、時折、威勢のいい掛け声も聞こえます。その音を奏でているのは札幌創成高校太鼓部。高校の郷土芸能大会^(※)で毎年全国大会に出場し、STVの人気番組で紹介もされるほど実力派の部活です。日々の練習のほかにも、月に1~2度、太鼓のプロプレイヤーによる指導を受け、さらに技術を磨いて質の高い演奏を目指して励んでいます。

その実力から、北区の成人式やお祭りなど、校外での演奏を依頼されることも多く、迫力いっぱいのパフォーマンスが、観客を引きつけてきました。コロナによる国際交流で、2022年から校外に招かれての演奏も少しずつ再開されています。10月末に東京で開催された全国大会後に3年生が引退し、現在は2年生10人、1年生16人の計26人で活動中。これからも部員一丸となって真剣に太鼓に向かっていきます。



(※) 全国高等学校総合文化祭 郷土芸能部門